

研究だより

平成15年度学校教育改善研究事業(2年次)後期の研究について

研究テーマ

基礎・基本の定着をめざす算数科学習指導のあり方

<研究テーマについて>

本校では、算数科の授業において、具体物を用いる・実際に体験する・発展的に考えるなどの算数的活動を積極的に取り入れた問題解決的な学習を推進することによって、基礎・基本を獲得し、学習に主体的に取り組むとともに算数の楽しさやよさを感じることができる子どもを育てることに力を入れている。そしてさらに、授業と家庭学習をリンクさせることにより、自学を日常化することができれば、基礎・基本の定着を確実なものにすることができると思う。

<研究仮説>

問題解決的な授業と家庭学習をリンクさせることにより、自学の習慣化を図るとともに、計画的なドリル学習によって、基礎学力を確実に身につけることができれば、基礎・基本を獲得し、主体的に学ぶ児童が育つのではないかと。

<研究内容>

1 学習意欲を育てる「授業と家庭学習のリンク」の事例

2年算数単元「かけ算じまをたんけんしよう。-かけ算(2)-」

(1) 算数的活動を積極的に取り入れた問題解決的な学習の推進

既習事項を想起し、見通しを持って学習問題に取り組ませるとともに、操作活動等で気づいたことをもとに自分の考えを作業用紙に書かせる。



の段を勉強した時と
よくなっているな。
ぼくは、図をかいて考え
てみよう。

個の考えを練り合い、高め合う場面では、「 5×6 と 6×5 の違いが分かる」という算数的な考え方をもとに、よりよい解決の方法を気付かせる反応を組み立てる。



〔T2の役割 誤答の提示による揺さ振り（思考を深め、内容の理解を確かなものにする手立て）〕



〔練習問題で内容の定着を図るとともに、理解度を評価する〕



（2）授業と家庭学習をつなぐ終末時の活動の工夫

本時のまとめを自分のことばで振り返りカードに書くとともに、今日の学習をさらに深める家庭学習のめあてを持つ習慣化を図る。



今日は、6の5つ分の勉強をしたよ。家でも問題を作ってやってみたいな。

(3) 授業と家庭学習のサイクル化による自己評価能力の育成

授業のノートを開けて、家庭学習のめあてを確認し、自学をしながら学習内容の理解度を自己評価させる。また、その内容を生活場面と結びつけたり、生活の中で活用したりしていくことで、さらに次の授業への意欲や期待感を持たせる。

2 自学の習慣化を図る「家庭学習の手引き」

家庭学習の習慣化とそれを支援するための手引きの作成

学習内容の確実な定着および発展的な学習を促すことができる構成にする。

保護者との連携による家庭学習の推進

学習内容のポイント、基礎となる事項、お願い・要望等、保護者向けの手引きを併記することにより、保護者の協力を得ながら家庭学習を充実させる。



〔本時の板書構造〕



〔振り返りと家庭学習の手引き〕
(前時参考)

3 基礎学力の定着を図るドリル学習

朝のドリル及び毎週金曜日4校時のドリルの効果的な運用

目標基準準拠検査(CRT)の分析から、個の実態を把握し、計画的なドリルによって、つまづきを発見し、個別指導や土日の家庭学習につなぐ。